


















令和5年度国際理解ワークショップ 進行シート

令和 5年 7月 28日作成

大学名： _____ 新潟大学 _____

タイトル： _____『誰も取り残さない』防災を目指して ～外国人対応について考えよう～ _____

1. 本ワークショップに関連するSDGsの目標に○印をつけてください。

○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標	○印	SDGs17の目標
	 ①貧困をなくそう		 ⑦エネルギーをみんなに そしてクリーンに		 ⑬気候変動に 具体的な対策を
	 ②飢餓をゼロに		 ⑧働きがいも 経済成長も		 ⑭海の豊かさを 守ろう
<input checked="" type="radio"/>	 ③すべての人に健康と 福祉を		 ⑨産業と技術革新の 基盤をつくらう		 ⑮陸の豊かさも 守ろう
	 ④質の高い教育を みんなに	<input type="radio"/>	 ⑩人や国の不平等 をなくそう		 ⑯平和と公正を すべての人に
	 ⑤ジェンダー平等を 実現しよう	<input type="radio"/>	 ⑪住み続けられる まちづくりを		 ⑰パートナーシップ で目標を達成しよう
	 ⑥安全な水とトイレを世 界中に		 ⑫つくる責任 つかう責任		

2 : 本ワークショップの要旨

日本は災害大国であり、多種多様な災害が起こっている。ガイドラインの策定やその周知など災害時の対応は進んでいるが、外国人への災害時の対応はまだまだ改善の余地がある。そこで、本ワークショップを通して世界の災害事情を踏まえつつ、日本人だけでなく外国人も取り残されない防災を実現するにはどうすればいいかを考えてもらう。

3 : 本ワークショップの目的(目標、実現したいこと)

「避難誘導に協力しよう」を体験することで避難所運営や避難生活にどんな難しさがあるか、自分たちに何ができるか、普段からどんな備えをしておいたらよいかといった点について、具体的に考えるき

かけをつくりたい。また、その中で外国人への対応について考えることは更に少ないので、災害時は自らの身を守ることが一番大切であるが、余裕がある時に外国人へ配慮することを考えてもらえるようにしたい。

4：本トピックをとりあげる理由

災害時には、災害大国で育った日本人である私たちでも大変なことがたくさんあるが、それ以上に日本に住む外国人、観光に来た外国人は大変なことが多く、災害に関する普段使用しない難しい日本語の理解、防災知識の不足、宗教や食事の習慣の違いなど外国人は災害弱者となりやすい。そういった現状を踏まえ、外国人への災害時の対応を考えられつつあるが、一般的な周知には至っていない。今回のワークショップで取り上げることで、少しでも多くの人に認識してもらいたい。

5 : 活動過程

(使用時間 : 90分 参加人数 : 5人)

過程 (所要時間)	活動内容	具体的な発問・ 説明・動きなど	ねらい	使用する 教材・備品	予想される反応、 その他注意事項
--------------	------	--------------------	-----	---------------	---------------------

<p>導入：起 (20分)</p>	<p>災害と防災 についての 紹介 (海外や日本 の事例など)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本で起きる 災害の例 ・世界で起こる 災害の例 ・防災とは何か <p>☆外国人が日本 の災害でどんな ことに困ってい るかを想像し軽 く話し合っても らう →共有, 具体例を 紹介</p> <p>→災害が起きた 時外国人が困ら ないようにする にはどうしたら よいかを考えま しょう!</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・災害や防 災について 大まかに知 ってもらい, 興味を持っ てもらおう ・災害で外 国人が困っ ていること を知っても らい, 想像し てもらおう 	<p>特になし</p>	<p>《予想される反 応》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の災害はあ る程度認識してい る ・災害発生時の外 国人の行動を考え たことがなかった ・話し合いでは言 語の問題が多く挙 げられると予想 <p>《注意事項》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去に被災して 心に傷を負ってい る生徒もいるかも しれないため、表 現には十分注意し ながら説明を行う ・話し合いで意見 が出づらそうであ ればヒントを出す
------------------------	---	--	---	-------------	--

<p>展開：承 (15分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人が災害時取り残されてしまう背景の紹介 ・HUGの紹介 ・『避難誘導に協力しよう』への導入 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人が取り残されてしまう原因・背景を、導入の流れを踏まえてより詳細に紹介する(文化・言語・宗教など) ・災害時の避難所での外国人対応の問題について取り上げる ・避難所運営ゲーム「HUG」の紹介 ⇒HUGをアレンジしてやりやすくした『避難誘導に協力しよう』体験をしてみよう! 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人が取り残されてしまう原因・背景の具体例を知ってもらう ・災害時の避難所での問題について知ってもらう。 ・HUGの存在について知ってもらう。また発展の「避難誘導に協力しよう」体験につなげる 	<p>特になし</p>	<p>〈予想される反応〉</p> <p>新たに知ることになる原因・背景に対し、聞く姿勢をもち理解を深める</p> <p>〈注意事項〉</p> <p>説明になるが、途中で聞く側が飽きてしまわないようにクイズを取り入れたり問いかけを出したりするなど、聞き手を惹きつける工夫をする。</p>
-----------------------	--	--	---	-------------	--

<p>発展：転 (45分)</p>	<p>「避難誘導に協力しよう教材セット」(HUGの簡略版)を利用して、外国人も含めた災害発生時の対応を考えよう</p>	<p>説明：5分 体験：30分 振り返り：10分</p> <p>小学生 39人 6人×3、 7人×3</p> <p>中学生 35人前後 6人程度×6</p> <p>ゲーム内容 ①5～7人ほどのグループに分ける。そのうち一人をカードの読み上げ役(班長)にする。 ②避難所に見立てた用紙を用意する。(体育館やトイレの位置などが書いてある) ③避難者の情報が書かれた訓練シナリオを班長が読み上げ、ほかのメンバーで話し合いながら避難者を図面に書き込む。 ④③を繰り返し、時間内でなるべく多くの避難者の対応にあた</p>	<p>・ゲームを通して、様々な事情や困難を持つ人の存在を知ってもらい、どう考慮すべきか考えてもらおう。避難所での過ごし方や切迫感をイメージしてもらおう。運営の際の連携の難しさを知ってもらおう。</p>	<p>各班に用意するもの ・班長に配る用のシナリオ(避難者・指示リスト) ・学校の見取り図(校庭・校舎・体育館見取り図) ・付箋(長方形) ・マーカー</p>	<p>・避難所運営の大変さ、切迫感 ・ルールを分かりやすく説明する ・子供たちの様子を見ながら適宜アドバイスをする</p>
------------------------	---	---	--	---	---

		る。			
まとめ：結 (10分)	「避難誘導に協力しよう」を体験しての各班の共有 ワークショップ全体のまとめ	・感想の共有 ・全体のまとめ	今回のワークショップ全体を通しての学びを振り返る。今後の災害時の外国人対応に少しでも関心をもって取り組んでもらうきっかけにする。誰も取り残さない防災についての理解度を高める。	特になし	・災害時の外国人対応は無理に強制するものではないことを念頭に置きつつまとめを行う。

6：会場のセッティング（対面の場合のみ）

発展の「避難誘導に協力しよう」をする際に、使う道具を広げるためのスペースづくりが必要（教室の場合は生徒が使う机を6個並べてつなげたほどのものを作る。また机などの無い多目的室などでWSを行う場合、床で相応のスペースを作る） グループごとにスペースを作成し、「避難誘導に協力しよう」体験をする

7：使用する教材

- ・防災教育シリーズ「避難誘導に協力しよう」

EDUPEDIA（2015）. プリント1枚で防災教育シリーズ「避難誘導に協力しよう」先生のための教育辞典 EDUPEDIA Retrieved from <https://edupedia.jp/archives/19960>（2023年7月28日）

8：参考にした資料

伊藤・朝間（2015）. 外国人避難者と災害時多文化共生 教育復興支援センター紀要, 3, 87-97.

EDUPEDIA（2015）. 避難所運営ゲーム（HUG）研修・授業実施のポイント, EDUPEDIA Retrieved from [避難所運営ゲーム\(HUG\)研修・授業実施のポイント | EDUPEDIA](#)

EDUPEDIA（2015）. プリント1枚で防災教育シリーズ「避難誘導に協力しよう」先生のための教育辞典 EDUPEDIA Retrieved from <https://edupedia.jp/archives/19960>（2023年7月28日）

9：その他